

留寿都町立留寿都小学校

～2泊3日の宿泊体験学習事例～

概要



- ◇期日 平成25年9月10日(火)～12日(木)
- ◇場所 フィールド/黒松内町及び近隣町村
宿泊/ぶなの森自然学校、黒松内町内農家
- ◇参加者 五年生児童 17名(男子7名・女子10名)
引率の教員方 3名
- ◇時数 5+10+5+2時間＝計22時間
(理科5、社会10、総合的な学習5、道徳2)

ねらい

学校の先生たちと、協議会側で「どのようなテーマで体験学習するのか？」を擦り合わせしながら、プログラムを組み立てていきます。先生たちとやり取りをしながら、実地担当するぶなの森自然学校が流れを考えていきます。

各活動のねらい

森での活動	<ul style="list-style-type: none"> ・黒松内が大切にしている森を知る ・その時々々の旬な事象をもって、自然環境の多様性について理解を深める。 →注意すべき危険な植物を知る ・森と海はつながっていることへの空間概念を広げる
民泊	<ul style="list-style-type: none"> ・黒松内の生活を体験する
川での活動	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌーに乗り、普段と違う視点から陸を見る ・河畔林、人の生活と治水を知る ・川の三作用(運搬、掘削、堆積)を体験的に学ぶ ・自然環境の多様性を体感する
海での活動	<ul style="list-style-type: none"> ・森から海までの大きな空間的視野の拡大 ・海の生き物を観察し、興味関心をよせる ・飛び込み活動による心の安全領域の拡大
野外調理	<ul style="list-style-type: none"> ・火おこし、調理、食事、片付けの工程を段取りを取って協力して活動をする
漁業プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業全体を体験的に知る ・高台より日本海、寿都湾全体を見渡す →地図という便利な道具、海底地形と漁業(漁法)の関係 ・寿都港のセリの見学→流通先を追う

2泊3日の 流れ

夏の暑さがまだ残る空の下。留寿都小学校5年生のみなさんが黒松内ぶなの森自然学校にやってきました。学校の授業では、森、川、海といった自然環境と私たちの生活はつながっている、と習いました。でもそれって本当なのかな??実際に見て、触って、嗅いで、感じて…自分で体験しながら『つながり』を確かめてみました。

※黒松内ぶなの森自然学校ブログ『黒松内だより』より、当日の活動様子を紹介。

1日目(9月10日 晴れ)



午前。バス揺られて留寿都小のみんなが自然学校に到着しました。重い荷物を担いでバスを降りると、さっそくはじまりの会です。初めての場所で緊張した面持ちの半面、期待に胸を膨らませた様子で、「よろしくお願ひします」と挨拶をしてくれました。それぞれの部屋に荷物を置いたあとはオリエンテーション。アイスブレイクで「フクロウとカラス」、「カモフラージュ」、「動物あてゲーム」という3種類のゲームを行い、体を動かして緊張をほぐしたり、自然の中でいろんなモノを見つける練習などを行ったあと、自然学校の施設内外を自分たちの目で確かめながら探索してもらいました。



お弁当を食べると、北限のブナの里として黒松内町が保護している『歌オブナ林』へ出発。2チームに分かれ、終点で折り返して往復約2時間半の道のりを散策しました。トドマツの樹液を触ってにおいを嗅いでみたり、キノコの傘の裏のフワフワしたところを触ってみたり、耳を澄まして虫の声を聞いてみたり…私たちよりずっとずっと大きい木々が生い茂る森の中で、体全身の感覚を使って自然のいろんなモノを感じました。



夕方。黒松内の農家さんのお宅へ。本日の夜は自然学校ではなく、農家さんやカフェの店主など黒松内に住む方々のお宅で泊まる「民泊」です。それぞれのお宅で、じゃがいもの収穫や牛の世話、カフェのお手伝いなどのお仕事を体験させてもらい、夜は民泊先の方と一緒に過ごしました。

2日目(9月11日 晴れ)



朝。民泊先でそれぞれ過ごし、9時頃に自然学校へ戻ってくるとすぐに水活動の準備です。午前中はカヌー！初めて着るウェットスーツを身にまとうと、黒松内を流れる朱太川へ。昨日歩いたブナ林の歌才川とつながっています。まずはフローティングで川を少し流れ、川の冷たさや流れの速さを体感します。そして、カヌーの乗り方やパドルの使い方を教わって出航です！朱太川は最近、護岸工事が行われている場所もありますが、依然として河畔林が多く残っています。水の上から眺める木々の緑はいつもとは違うように見えます。船の上から見える青い空、時折飛びたつアオサギやカモ。水面を吹きすさぶ風。川の中でも流れは場所によって速かったり遅かったり。いろいろなモノを感じ、時折、水をかけ合い、競争をしながら終点である日本海めざして漕ぎ進みました。



午後。カヌーでたどり着いた日本海に面する、寿都町・政泊港にて海の活動です。海のない留寿都村に住むみんなは、海であまり遊んだことがなく、中には初めて海に入る子も。足がつかない～！しょっぱい～！と、とまどいつつも、少しずつ海に慣れ、シュノーケルで海の中をのぞいて、たくさんの魚やウニ、カニ、貝、ウミウシに大興奮！たくさんつかまえて、ミニ水族館をつくりました！そしてお次は2段になっている堤防からの飛び込み！低い方は海上約2m。高い方はなんと約4m！上から下を覗くとその高さに足がすくみます。その恐怖を乗り越えて海へと飛び込む子、低い方でも怖くてどうしようずっと悩んでしまう子。自分の安全の領域との闘いです。最後には高さの違いはあれども、みんな、海への飛び込みを果たしました！そのうちに楽しくなって、もっとかっこよく！もっと遠くへ！といろんな飛び込みにチャレンジしました。

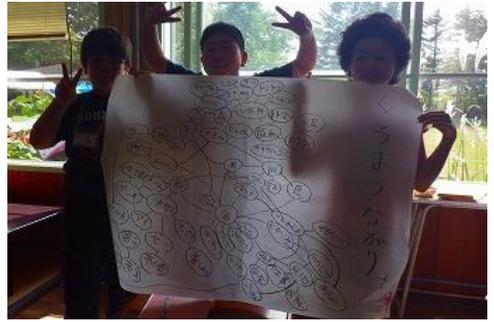


夕方からは野外調理！この日の夕食は自分たちで作らなければなりません。メニューはカレーライス！カレーライスの作り方、火の起こし方を教えてもらって早速調理にとりかかります。道具にピーラーはなく、包丁で野菜の皮をむきます。やり方をこの間、学校で習ったけれど、やってみるのは初めて～、と悪戦苦闘。野菜も大きさはどれくらいかな？と、家で食べるカレーを思い出しながら試行錯誤しながら野菜を切っていました。一方、火おこしも調理の上で欠かせない作業。火が起きなければ何もできません。火おこし組も教わったやり方を忠実に守りながら、薪を組み、火をつけます。どの班も無事に火をつけ、順調にごはんとカレーを作りました。最後に、隠し味として用意された調味料を各班それぞれ好みで選択して入れ、4通りのカレーライスができあがりしました。自分たちで協力しながら作り上げたカレーライスは格別で、あっという間にたいらげました。

3日目(9月12日 晴れ)



早朝から大忙しの最終日。まずは自然学校のニワトリたちにエサをあげて一仕事し、朝ごはんを急いで食べるとそのまま出発。高台から寿都湾を眺望します。陸と同じように海にも地形図があり、地形を読みながら漁師さんたちは魚を獲っているのです。この海の中を相手に仕事をしている漁師さんに想いを寄せて、次は寿都の漁港へ向かいます。水揚げされた魚のセリが行われるのです。会場にはたくさんの種類の魚介類が並び、次々に競り落とされていきます。邪魔にならないように静かに見学し、終わったところを見計らって、これは何の魚？魚はこのあとどこへ行くの？と業者の方にたくさん質問させていただきました。そのあと、近くのスーパーへ行ってみると、なんと先ほどのセリ会場でお会いした方が！魚はこうして売られて私たちの食卓にのぼるのですね。そして今度は、漁船に乗船体験です。ホタテの養殖場や定置網の場所など、漁師さんの仕事場を見学させていただきました。



最後には3日間のふりかえり。模造紙に3日間でやったこと、見たこと、感じたことなどを書き出していきます。川ではカヌーをやって、下っていくと海があって、そこでは漁師さんが仕事をしていて……書き出していくとなんと、私たちが3日間で体験したことはつながっているではありませんか。なるほど、教科書で習った、自然と私たちの生活はつながっている、とは本当のことだったのだ！みんな大興奮の様子でした。教科書で習い、外で実際に体験していくこと。そうして初めて本物であるとわかるのです。みんな、留寿都に戻っても身の回りのつながりを見つけていきたい、そう言って帰って行きました。

